

令和6年度 基本施策評価シート

作成日

令和6年6月13日

基 本 施 策	D4	環境意識・行動の定着を図ります	
2025年度に めざす姿	対 象		意 図
	だれもが		環境に対する当事者意識を持ち、環境行動を実践している。
第五次総合計画[前期基本計画]基本施策掲載ページ			114ページ
基本施策主管課名	環境政策課	関 係 課 名	土木総務課、廃棄物対策課、ゼロカーボンシティ推進室、学校教育課

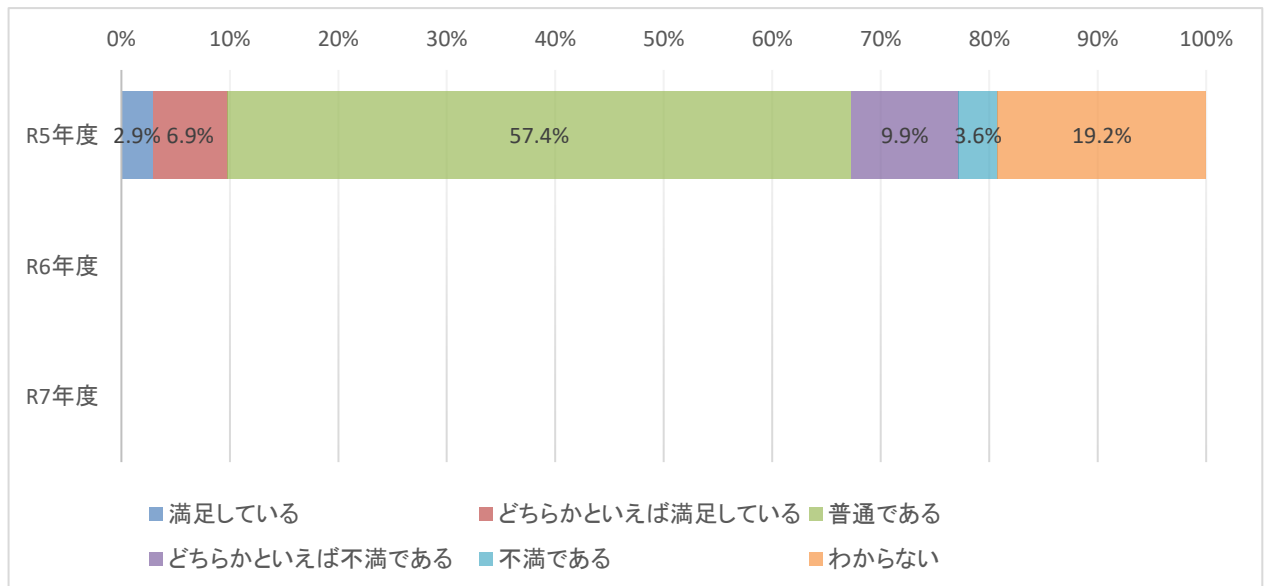
基本施策の総合評価

総括	●基本施策の成果指標である「環境活動に参加した市民の割合」は42.6%(令和5年度実績)で、2025年度(令和7年度)に目指す姿である48.0%を下回っているものの、基準値である37.8%(令和2年度)からは上昇している。 ●環境学習等への参加者数や環境保全団体メンバー数が伸び悩んでおり、環境学習および行動に取り組む新たな層の掘り起こしが十分でない。 ●環境行動を促すための情報提供が行き届いていないため、環境行動に新たに取り組む方の掘り起こしが十分でない。 以上を踏まえ、今後の主な取組みは次のとおりとする。
D4-1	●小中学校においてはESD講座の取組みにより環境学習を深化させるとともに、全世代において「サステナプラザながさき」を中心として、環境講座や教室等を実施することで多様な世代が学べる場を拡大していく。
D4-2	●ゼロカーボンシティ長崎ポータルサイトを活用しつつ、市民参加型アプリ「actcoin」のポイントをサステナプラザながさきの来訪者に付与するなど、サステナプラザながさきを訪れる機会を増やす工夫と環境行動に新たに取り組む方の掘り起こしを同時に行う。

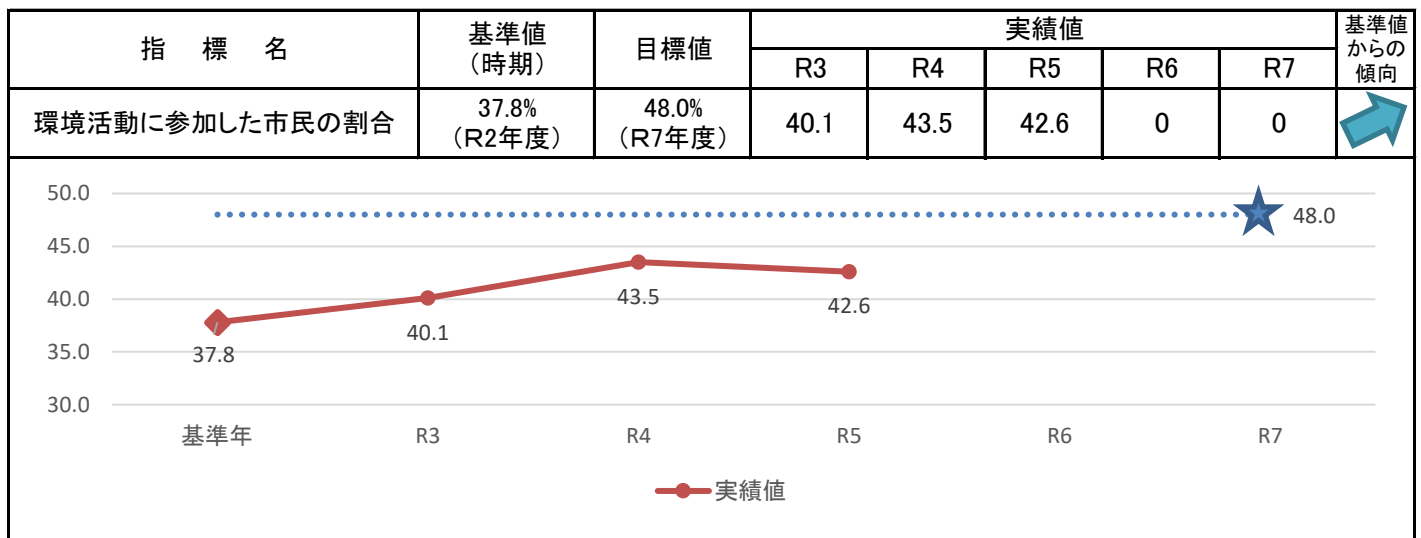
二次評価(施策評価会議による評価)

●	【D4-1】 「次世代を担うリーダーの育成」について、若年層の推進員を増やす具体的な方策の記載を検討すること。
●	【D4-1】 成果指標「環境学習等への参加者数」については、終了した講座等もある一方で、新たに取り組んでいる環境系の講座等もあると思われることから、庁内連携を強め把握に努めること。
●	【D4-2】 「環境行動に向けた周知・広報の推進」の問題点と要因として「緑化推進事業の取組み及び周知方法が恒常化」をあげているが、今後の取組方針にはその対応策が記載されていない。改善型評価の趣旨を踏まえ、「問題点とその要因」の因果関係を明らかにしたうえで、「今後の取組方針」に具体的に記載すること。
●	【D4-2】 市民参加型アプリ「actcoin」の普及促進に向けて更なる周知・PRに努めること。

基本施策に対する市民満足度調査結果



成果指標



年度別 主な取組内容

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
・親子環境教室の開催 3回開催、201人参加 ・親子で省エネ実験・施設見学会 1回開催、41人参加 ・環境副読本の制作・配布(データにより提供) ・ながさきエコライフ・フェスタ 6,900人 ・ながさきエコライフ・ウィーク 39,200人 ・ながさきエコネット登録者数 56,626人	・親子環境教室の開催 3回開催、178人参加 ・親子で省エネ実験・施設見学会 1回開催、32人参加 ・長崎市内小学校の児童用端末に環境副読本(データ)掲載 ・ながさきエコライフ・フェスタ(実り・めぐみの感謝祭等と合同開催) 20,700人 ・ながさきエコライフ・チャレンジ月間 200人 ・ながさきエコネット登録者数 56,696人		

令和6年度 個別施策評価シート

個別施策	D4-1	環境に対する当事者意識の醸成を図ります
2025年度にめざす姿	対 象	意 図
	だれもが	あらゆる世代で環境を学び、当事者としての環境意識を持っている。
個別施策主管課名	環境政策課	

成果

① 幅広い世代への環境教育・啓発の推進

- 「親子環境教室」や「親子で省エネ実験・施設見学会」を開催したことで、親子での自然環境、省エネ等の体験を通して、家庭においても環境行動への意識を高め、率先して環境行動を実践するきっかけにつながった。
「親子環境教室」 3回 178人【D3-1から再掲】
「親子で省エネ実験・施設見学会」 1回 32人 ※九州電力株式会社長崎営業所との共催

- 様々な団体に対し実施する地球温暖化防止活動推進員による環境出前講座にて、LED化の啓発や牛乳パックを用いたエコ工作、防災エコクッキング等を実施することにより、幅広い世代において自ら課題を見つけ解決していく能力を身に着ける機会につながった。
「環境出前講座」 22回 547人

- 小中学校63校において、総合的な学習の時間等における環境学習をはじめ、節電・節水、緑のカーテン、落ち葉や給食残滓を利用した堆肥づくりなどの環境行動の取組みを通して、環境意識の醸成が図られた。
また、26校において給食用牛乳パックの回収を行い、72校において家庭から排出されるペットボトル等のふたやプルタブの回収を行ったことから、児童・生徒及び保護者のごみ分別・リサイクル意識の醸成が図られた。
【D2-1から一部再掲】

② 環境教育の次世代を担うリーダーの育成

- 環境団体との連携により小中学校の授業として実施するESD(持続可能な開発のための教育)講座を13校で実施したことにより、子どもたちが自ら課題を見つけ解決していく能力を身に着ける機会につながった。

- 長崎市の自然環境や地球温暖化対策を紹介する環境副読本のデータを長崎市内小学校の各児童の端末に掲載したことで、環境問題を身近な問題として感じてもらうための環境学習のサポートにつながった。

- サステナプラザながさきを中心として、地球温暖化防止活動推進員を対象としたスキルアップ研修及び市民ネットワーク『ながさきエコネット』と連携、協力することで、環境教育の次世代を担うリーダーの育成に努めた。
「スキルアップ研修」 6回 17名

問題点とその要因

① 幅広い世代への環境教育・啓発の推進

- 様々な講座を実施しているが、環境問題に一定の関心がある方向けの内容であるため、環境問題への無関心層が参加するような内容になっていない。

② 環境教育の次世代を担うリーダーの育成

- 小中学校においてはESD講座などの新たな取組みを実施する時間的な余裕がないため、学校側が実施しやすいような講座内容の工夫をしているものの、その効果が一部にとどまっている。

- 若者に対する環境問題への意識啓発が不足しているため、地球温暖化防止活動推進員の若年層(18~34歳)の割合が27名中3名と少なく、次世代を担うリーダーの育成につながるような推進員の拡大が図れていない。

今後の取組方針

① 幅広い世代への環境教育・啓発の推進

- | | |
|----|---|
| 継続 | ●「親子環境教室」や「親子で省エネ実験・施設見学会」を継続し、家庭においても環境行動への意識を高め、率先して環境行動を実践するきっかけづくりに努める。 |
|----|---|

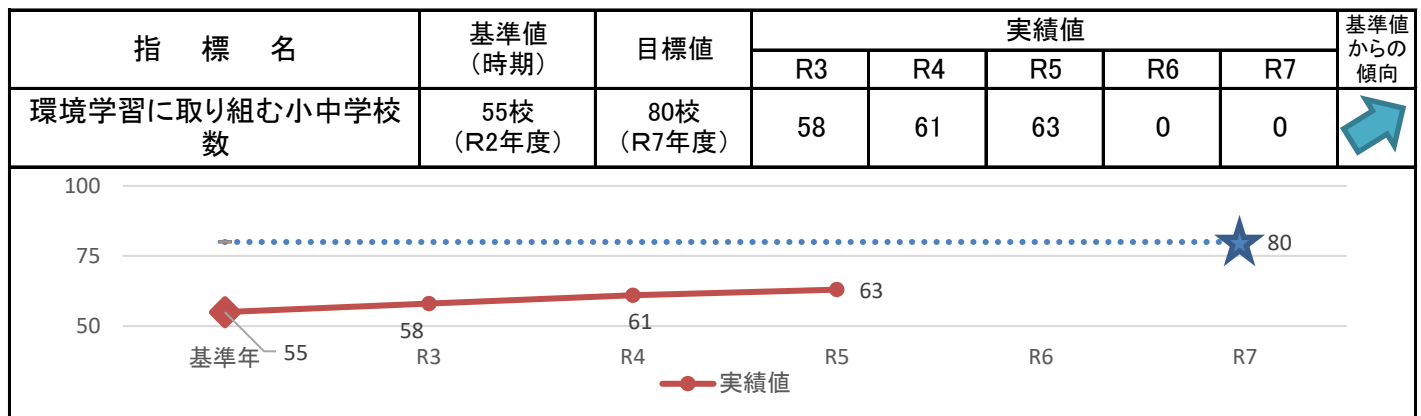
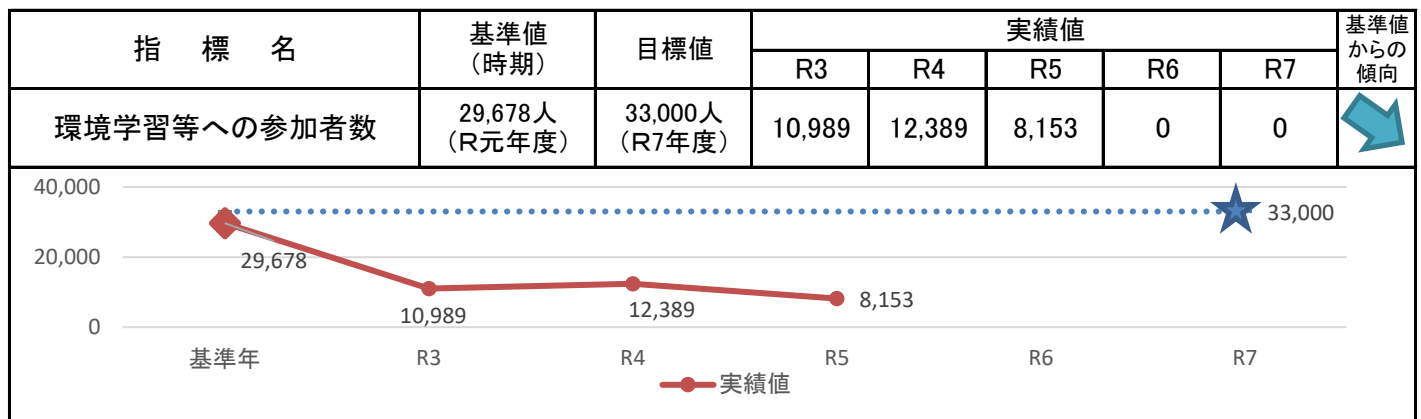
- | | |
|----|--|
| 改善 | ●講座や説明会に参加することで特典を得られるようにすることで、無関心層まで含めた新規の参加者を増やすなど内容の検討を進める。 |
|----|--|

② 環境教育の次世代を担うリーダーの育成

- | | |
|----|--|
| 継続 | ●環境団体との連携により小中学校の授業として実施するESD(持続可能な開発のための教育)講座の取組みを広げるとともに、環境副読本や環境行動11か条周知動画を活用するなど他の手法についても検討しながら、「ゼロカーボンシティ長崎」の推進と子どもたちが自ら課題を見つけ解決していく能力の育成を図る。 |
|----|--|

- | | |
|----|--|
| 改善 | ●「ecoNながさき」の活動を継続して支援し、併せて環境活動の様子をSNSなどで紹介するなど、若者をターゲットとした周知を図ることで、若者の意識醸成を図る。 |
|----|--|

成果指標



施策を推進する主な事業

1	事業名 担当課	環境啓発推進費		環境政策課	
	成果指標	環境教室の参加人数			
	目標値	200人			
	実績値	210人			
	達成率	105.0%			
	成果指標・ 目標値の説明	環境学習への取組みの拡大を図るため、親子環境教室及び親子で省エネ実験・施設見学会の参加人数を成果指標とした。 後期基本計画策定時、目標値を見直し、各環境教室の定員数(50名)に開催数を乗じた値を各年度の目標値とした。			
	事業目的	環境意識の高い市民を増やすことで自発的に環境行動を実践する市民を増やし、持続可能な社会の構築を目指す。			
	事業概要	親子環境教室、親子で省エネ実験・施設見学会など、次世代を担う人材の育成のための環境教育を行うとともに、環境副読本の作成などを行う。			
	取組実績	・親子環境教室の開催 3回開催、178人参加 ・親子で省エネ実験・施設見学会 1回開催、32人参加 ・環境副読本の制作・配布(データにより提供)			
	決算(見込)額		3,302,831	円	

令和6年度 個別施策評価シート

個 別 施 策	D4-2	環境行動を促し、生活様式として定着させます	
2025年度に めざす姿	対 象	意 図	
	だれもが	自発的な環境行動を実践している。	
個別施策主管課名	環境政策課		

成果

① 自発的な環境行動の推進

●4年ぶりに長崎水辺の森公園にて「ながさき実り・めぐみの感謝祭」等と合同開催した「ながさきエコライフ・フェスタ」では、約20,700人が来場した（令和4年度：約6,900人→令和5年度：約20,700人）。また、市民が環境団体等の活動に参加する「ながさきエコライフチャレンジ月間」を新たに実施し、約200人が参加した。市民や事業者がイベントや活動に参加することで、自らできる環境行動を知り、環境行動の実践に繋がった。

●市民大清掃やアダプトプログラムなどにおける清掃活動参加者や、ながさきエコライフ・フェスタ来場者に対し、ごみ拾いSNS「ピリカ」を活用して本市におけるごみ拾い活動見える化の取組みに関する周知活動を行ったことにより、令和5年度のピリカを通じてのごみ拾い活動参加者は3,000人を超え、約12万個のごみが拾われるなど、市民等の環境意識の醸成が図られた。

●市民大清掃等のイベントや、ボランティア清掃団体に対してごみ袋の支給を行っており、約500団体、延べ約9万人がボランティア清掃に参加し、地域や職域、学校など様々な単位・団体による自発的な活動が定期的になされるようになっており、環境行動に対する意識の醸成が図られた。
また、ごみ出しマナーについて、新大学生へ向け、啓発促進のためのブースを学内に設置し、ごみの減量と分別の徹底を呼びかけることで、ごみ出しのマナーやごみの減量、分別に対する意識の向上につながった。

② 環境行動の次世代を担うリーダーの育成

●「サステナプラザながさき（長崎市地球温暖化防止活動推進センター）」において、市民の身近な環境行動を推進するため、環境講座（サステナひろば（32回））や海洋プラスチックごみ削減を目的とした山・まち・川・海での清掃活動（1回）等の市民向けイベントを実施したことにより、市民の環境行動の促進につながった。

●市内の中、高、大学生で構成される「ecoNながさき」が、「ながさきエコライフ・フェスタ」において、「自転車発電」のブースを出展し、若者を中心とした活動内容のPRを行うことで、特に若い世代に向けた環境行動の周知・啓発につながった。

③ 環境行動に向けた周知・広報の推進

●広報ながさき2月号の特集にて、1日のエコ生活ルーティーンの紹介や長崎市地球温暖化防止活動推進員への取材記事の掲載、各種市民向け補助金の周知等を行うことで、「ゼロカーボンシティ長崎」の実現に向けた機運醸成を図った。

●ゼロカーボンシティ長崎ポータルサイトを開設し、環境行動を実践する市民・事業者の取材記事やPR動画の掲載、市民参加型アプリ「actcoin」との連携を実施したことにより、市民・事業者への啓発及び今後の行動変容へ繋がるものとなった。【D1-1から再掲】

●環境のために一人ひとりができることをまとめた「環境行動11 か条」を自治会掲示板や長崎バス、路面電車などへ掲示し、また、路面シートを公園などへ掲示した。さらに、動画を作成しSNSでも幅広く周知することにより、環境行動の実践につながるきっかけづくりに繋がった。

●子ども達に花や緑へ興味関心を抱いてもらうため、公共花壇デザインコンクールを開催し、多くの小学生（3～6年生）に花や緑について考える機会を提供できた。更に、デザインを花壇へ表現することで、子ども達に、より深く花や緑へ興味関心を抱いてもらうことにつながった。

●より多くの人に花や緑に触れ、その理解と知識を深めてもらうため、造園関係団体等と連携して実施する「ながさきグリーンキャンペーン」において、会場イベントを市役所庁舎前広場で開催し、約1,000人が来場した。多くの人に花や緑に触れる機会を提供することで、その理解や知識をより深めるきっかけづくりにつなげることができた。

問題点とその要因

① 自発的な環境行動の推進

- 「ながさきエコライフチャレンジ月間」を新たに実施し、参加者数が約200名となったが、実施初年度ということもあり、周知が十分に行き渡らなかった。

② 環境行動の次世代を担うリーダーの育成

- 長崎市内の中、高、大学生で構成される「ecoNながさき」が環境活動を実施しているものの、若者に対する啓発が不足しているため、若者への認知度が低く、多くの若者に参加してもらっていない。

③ 環境行動に向けた周知・広報の推進

- 「サステナプラザながさき」事務所については、より目立つ桜町へ移転し、認知度についても年々上昇している(H29 4.7%⇒ R5 45.9%)ものの、未だ低い状況にある。

- 環境行動を促すための情報提供が行き届いていないため、環境行動に新たに取り組む方の掘り起こしが十分でない。

- 緑化推進事業の取組み及び周知方法が恒常化しており、新たな市民の参加につなげていない。

今後の取組方針

① 自発的な環境行動の推進

- | | |
|----|---|
| 継続 | ●「ながさきエコライフチャレンジ月間」などの環境行動に取り組む市民の増加を図るため、効果的な周知、啓発を継続して行う。 |
|----|---|

② 環境行動の次世代を担うリーダーの育成

- | | |
|----|--|
| 継続 | ●「ecoNながさき」の活動を継続して支援し、併せて環境活動の様子をSNSなどで紹介するなど、若者をターゲットとした周知を図ることで、若者の意識醸成を図る。【D4-1から再掲】 |
|----|--|

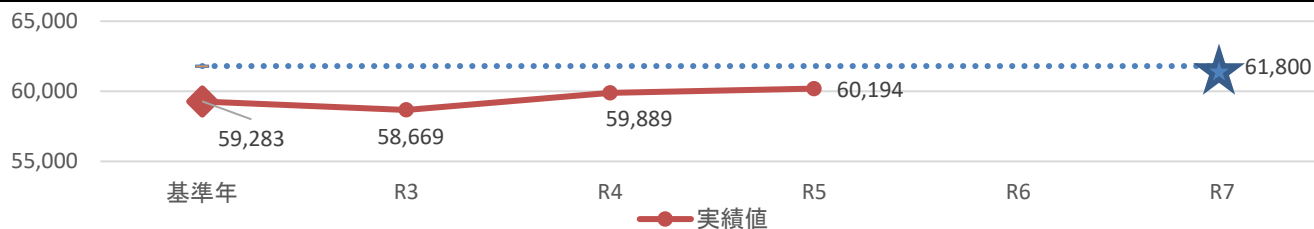
③ 環境行動に向けた周知・広報の推進

- | | |
|----|--|
| 継続 | ●ゼロカーボンシティ長崎ポータルサイトを活用しつつ、市民参加型アプリ「actcoin」のポイントをサステナプラザながさきの来訪者に付与するなど、サステナプラザながさきを訪れる機会を増やす工夫と環境行動に新たに取り組む方の掘り起こしを同時に行う。 |
|----|--|

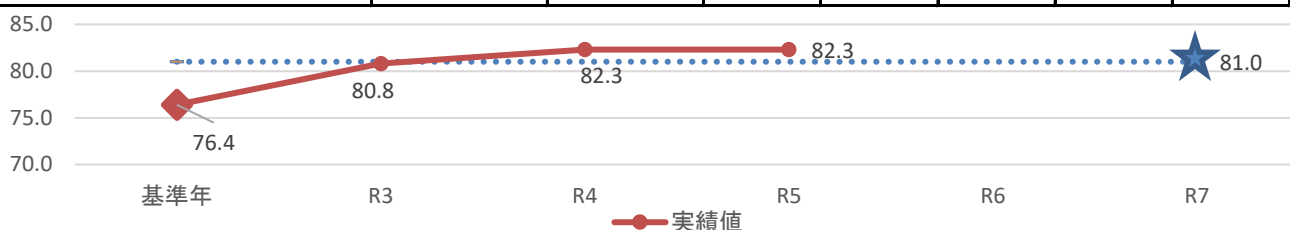
- | | |
|----|---|
| 継続 | ●幅広い世代へ緑化の推進を図るため、市の様々な広報手段と連携し、時期を捉えて緑化活動を紹介するなど緑化の魅力を発信するとともに、イベント等を開催することで、花や緑への興味関心を促す等、緑化の啓発に取り組む。 |
|----|---|

成果指標

指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
環境保全団体メンバー数	59,283人 (R2年度)	61,800人 (R7年度)	58,669	59,889	60,194	0	0	▲



指標名	基準値 (時期)	目標値	実績値					基準値 からの 傾向
			R3	R4	R5	R6	R7	
環境活動に取り組んだ児童生徒の割合	76.4% (R2年度)	81.0% (R7年度)	80.8	82.3	82.3	0.0	0.0	▲



施策を推進する主な事業

1

事業名 担当課	地球温暖化対策市民運動推進費		ゼロカーボンシティ推進室	
成果指標	環境イベントへの来場者数		 【ながさきエコライフ・フェスタ】	
目標値	14,000人			
実績値	20,900人			
達成率	149.3%			
成果指標・ 目標値の説明	市民総参加による継続的な環境行動の実践に向けて、より多くの市民が環境行動を実践するためのきっかけづくりとして、環境イベントを開催することとしている。市民が取り組むことのできる運動を展開し、CO2の排出量削減等に向けた市民運動の創出を図るため、成果指標とした。また、コロナ禍により分散開催となった令和4年度の参加者6,900名の約2倍の参加者を目標値としている。			
事業目的	市民総参加による継続的な環境行動の実践に向けて、「だれでも」「いつでも」「簡単に」取り組むことができる運動を展開し、CO ₂ の排出量削減に向けた市民運動の創出を図る。			
事業概要	「ながさきエコライフ」の取組みの更なる浸透と拡大を図るため、ながさきエコライフ基金等を活用し、広く市民が参画する活動や、未来を担うこどもたちの活動へ還元することで、市民の自発的かつ継続的な環境行動を促進する。			
取組実績	ながさきエコライフ・フェスタ		20,700人	
	ながさきエコライフ・チャレンジ月間		200人	
	決算(見込)額		31,499,330	円